

令和2年度 学校自己評価

八代白百合学園高等学校

学校教育目標	キリスト教精神に根ざした価値観を養い、地域社会・国際社会に奉仕・貢献できる女性の育成に取り組む。
	～かけがいのないいのちを生きる存在であることを意識し、自らの可能性の実現に向けて挑戦しよう～ ・自分と同じように他者のいのちも大切にしよう ・互いに学びあうことを通して、仲間とつながる喜びを体感しよう ・身近な集団や地域社会・国際社会の中で、自分ができることを見つけ、心から喜んで行動しよう
今年度の重点目標	・多様な生徒各々に応じた学力向上を図り、進学実績を向上させる（生徒の可能性を見極め一人ひとりが進路目標を達成できるようサポート） ・アウトプット力の養成（思考力・判断力・表現力を培う） ・部活動・生徒会活動の振興、社会性とリーダーシップの養成（地域と連携した活動） ・特別支援教育の充実（建学の精神を基盤にした、特別支援教育・共生教育の充実）

総括表

評価項目		評価の観点・目標	具体的な方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	建学の精神の実践（カトリック精神に基づく教育の推進）	・祈りを通して自己と向き合う ・行事を通じてカトリック精神を学び成長の糧とする	A	各種行事がコロナ禍により中止となる中、クリスマスや修養会等宗教的な行事は実施することができた。
		姉妹校との連携	・各姉妹校へのビデオレターでの交流 ・オンラインでの交流会の実施	C	コロナ禍により修学旅行は中止となったが、ビデオレターやオンラインでの交流を通して全国にある姉妹校との交流は継続することができた。今後も交流を通して白百合の生徒としての意識向上を図る。
		コースの特色を生かした教育活動の展開	・生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導に取り組む	A	各コースでのそれぞれの取組について教員間の情報共有を図ることができた。
	開かれた学校づくり	情報公開	・学校HPの充実による適切な情報発信	A	学園HPは適切な頻度で更新されている。情報発信についてはタイムリーなものとなるようスピーディーに行う。
		家庭との連携	・保護者会との連携を充実させる ・保護者への情報提供	B	保護者会総会はコロナ禍により中止、定例会も縮小しての実施となった。行事等も制限されたためオンラインでの実施等検討する。メール配信での保護者への情報提供は、細やかに行うことが出来ている。
		地域との連携	・12校園連絡会で地域学校との情報交換の充実 ・地域町内会との連携	C	地域と連携しての活動が制限される中、地域町内会との奉仕活動に取り組んだ。
		「しらゆりの教育」の情報発信	・オープンスクールの充実	B	オープンスクールは実施方法を見直しコロナ禍対応とすることで例年以上の中学生の参加者数となった。

評価項目		評価の観点・目標	具体的な方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学習指導	基礎学力の向上	個々の生徒の実態の把握による対応	- 学力診断により生徒それぞれに対応した指導を行う - 学び直しを実施し、基礎学力の定着を図る	A	学力診断テスト結果を活用し個々のレベルに応じた指導を行った。また、基礎学力定着のためマナトシを活用し、結果に応じて補講を行うなど、よりきめ細やかな指導を実施した。
	学習習慣の確立	学習習慣の定着	自律学習への構えをつくる	B	家庭学習課題について内容や方法を工夫することで家庭学習の充実を図りたい。
	教員の指導力向上	教科指導力の向上	わかりやすく生徒を引き付ける魅力ある授業の実践	B	授業での実践を教員間で共有することで授業力向上に努める。
進路指導	進路目標実現	進路意識の向上	- 進路ガイダンスの実施 - 進路講演会の実施 - 面談の充実	B	コロナ禍によりガイダンス等実施の機会は減少した。進路意識向上のため、学年ごとに自己分析や進路学習を段階的に行うことで、自分の適正と興味のある進路への理解を深め、目標をより具体化できるような指導を展開する。
		インターンシップの活性化	インターンシップマッチングの強化と内容の充実	B	コロナ禍により実施はできなかったが、外部機関との連携によりオンラインでのデモンストレーション等を体験することができた。インターンシップの活用だけでなく職業観の涵養を図る機会を充実させる。
生徒指導	生活指導	品格ある白百合生としてのマナー指導	挨拶、服装、時間の厳守等ルールとマナーが身につくよう整容指導の徹底	A	挨拶は多くの生徒は指導の必要なくできている。教室の整理整頓等凡事を徹底することで社会性を身につけさせる。教職員自らが範を示すことができるよう意識向上を目指す。
		交通安全教育の充実	- 通学時の街頭指導を行う - 通学時のスマートフォン使用指導の徹底	A	スマートフォン等の使用について自転車利用や公共交通機関利用等通学手段に応じた指導を徹底した。また登校時、通勤時間と重なり事故の危険性がある箇所での街頭指導を定期的に行った。
	安全安心な環境づくり	いじめの未然防止、早期発見、早期対応	アンケートの実施	A	いじめは本校では「ない」ではなく「起こるかもしれない」という共通意識のもと日頃から教員間での情報共有に努めている。
	特別支援教育	特別支援体制の強化	- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの有効活用及び関係機関との連携強化 - 個別的教育指導・支援計画の策定 - ケース会議の充実 - 保護者との連携強化	A	個々の生徒についての情報共有を強化し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携により、対応を充実させることが出来ている。今後は遠隔でも授業参加が可能となるようICTの活用等についても検討を行う。

評価項目		評価の観点・目標	具体的な方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
特別活動	国際交流の推進	韓国姉妹校との交流 その他の国際交流	- 年2回の交流を展開する 「総合的な探究」での韓国語講座の実施	C	コロナ禍により交流は中止となった。当面、状況によっては直接の交流機会ができないことも想定されるため、オンラインでの交流等を通じて継続できるように姉妹校と連携を図る。
	ボランティア活動の推進	奉仕活動への理解を深める 心豊かな生徒の育成	- ボランティア活動への積極参加を促す - 各種支援施設との交流 - 校内献金活動を通して他者への慈愛の精神の醸成	A	令和2年7月豪雨災害時には、避難所での支援物資の仕分けや清掃活動などを学校全体の取組として行った。
	インターアクトクラブ活動の推進	地域奉仕プロジェクトへの参加	地域貢献の意義を学ぶ	B	担当地域ロータリークラブの協力により、インターアクトクラブ活動を生徒会が中心となり取り組んでいる。地元での活動に限定されてしまったが、活動体験を通じて社会奉仕の理解を深めることができています。
	部活動	部活動の活性化	- 全国レベルの部活動への活動環境整備 - 部活動を通じての地域貢献活動	A	コロナ禍により活動が制限される中でも自己研鑽やチームでの活動にそれぞれが取り組むことができた。

A 達成できた、B 概ね達成できた、C あまり達成できなかった、D 達成できなかった

次年度への課題および改善点

来年度入学者より実施するコース改編により、生徒それぞれが高校生活を充実させながら、より高い進路目標実現のために生徒一人ひとりに対してのきめ細やかな指導を充実させる。

令和4年度からの「新学習指導要領」施行に合わせ、新コース制度等独自の教育活動を実現することができるカリキュラムとなるべく準備を行う。

ICT教育のための設備・環境を整備についても早急な導入に向けて検討する。
合わせて教育と校務のICT化の推進を図る。